

2022年度 株主との対話実施状況等

2022年度 株主との対話実施状況等(1/3)

【対話・フィードバック概要】

| 項目 | 状況 |
|-------------------------------|---|
| 主な対応者 | 経営層： 社長、副社長（CFO、経営戦略本部担当役員）、社外取締役等 事務局： 経営戦略本部CSR推進グループ（機関投資家対応） |
| 対話株主 （概要） | 国内外機関投資家等に対して以下を実施 個別面談 ：機関投資家(国内：98件、海外：53件)、アナリスト等56件 （ファンドマネージャー、ESG担当、議決権行使担当者など） 決算・経営計画説明会 ：4回（国内・海外機関投資家） 見学会・事業説明会等 ：3回（国内・海外機関投資家） |
| フィードバック実施状況 （経営会議） | ・取締役会：年1回株主の声をフィードバック ・その他：社外取締役との対話内容等、実施毎に取締役会でフィードバック |

2022年度 株主との対話実施状況等(2/3)

【対話の主なテーマ、株主の関心事項】

| 項目 | 関心事項 |
|-----------------------|--|
| 経営戦略 ・資本政策 | <ul style="list-style-type: none"> ○資本効率(ROE,ROIC等) 重視の姿勢 ○PBR向上に向けた取り組み（低PBRの要因分析、計画への織り込みのスケジュール感等） ○安定配当継続の姿勢 ○JERAとの今後の関わり方（ガバナンス、資本関係、電力等調達の展望） |
| 財務関係 | <ul style="list-style-type: none"> ○利益水準の早期回復に向けた対応策 <ul style="list-style-type: none"> ミライズ：販売政策の見直し、市場変動リスク抑制策、燃調上限超過への対応 PG：託送料金改定の影響、需給調整費用高騰への対応、最終保障供給の動向 JERA：実力収支水準の見極め（ウクライナ情勢の影響等） ○戦略的投資の進捗・収支影響 ○浜岡原子力発電所の再稼働に向けた進捗状況 |
| ESG | E <ul style="list-style-type: none"> ○脱炭素目標達成に向けた各施策に係る具体的な道筋・CO2削減貢献量等、具体的情報の開示 <ul style="list-style-type: none"> －安定供給と脱炭素化の両立の蓋然性（アンモニア・水素等サプライチェーン構築の計画進捗等） －利益目標への影響（投資額規模含） |
| | S <ul style="list-style-type: none"> ○女性取締役・管理職比率向上に向けた取組 ○人財戦略の方向性・取り組みの進捗 |
| | G <ul style="list-style-type: none"> ○社外取締役比率の向上 ○報酬へのESG指標組込の検討有無 ○スキルマトリクスについて、ESG（特に「脱炭素」）の項目追加の検討有無 ○独禁法関係、情報漏洩関係等のコンプライアンス事象の事実関係、コンプライアンス対応策 |

2022年度 株主との対話実施状況等(3/3)

【対話を通じた改善事項】

| 項目 | 改善事項 |
|---------------|---|
| 資本効率性指標 | ○2022年4月公表中期経営計画において、経営目標にROIC指標を導入。 |
| 脱炭素化に係る 開示 | ○TCFD開示について、2019年に賛同し、2020年より開示。 ・資本市場の声を踏まえ、開示先進事例等も確認しつつ、定量的・具体的な開示充実に注力 ・「財務影響(火力発電資産の耐性等)」等の定量的開示についても、可能な範囲で順次対応 (第99期定時株主総会招集通知 P.27 に今後の開示予定項目を記載) |
| スキルマトリクス | ○スキルマトリクスに環境スキルを追加 (「電力供給・環境に資する技術」) (第99期定時株主総会招集通知 P.18) |
| 社外取締役 との対話 | ○資本市場からの社外取締役との対話要請に基づき、個別面談を実施 (参考) 2023年度においても、議決権行使に係る対話に社外取締役が対応 |